

テクノプロ・グループ決算説明資料 (2016年6月期 第1四半期)

テクノプロ・ホールディングス株式会社

2015/10/30

目次

	Page
I : 業績概要	1
II : KPI*分析	6
i : 技術者数	7
ii : 売上単価	10
III : 株主還元	11
IV : 参考	13

* KPIについては「その他」事業分野を除く数値を記載

2016年6月期 第1四半期の業績概要

- 2015年7月31日発表の業績予想を維持。

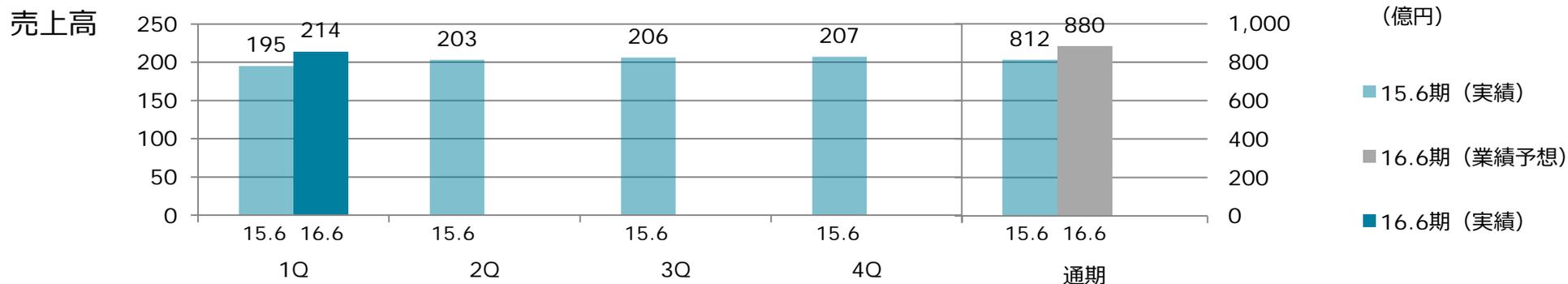
(百万円)

項目	四半期					通期		
	15.6 1Q (実績)	進捗率	16.6 1Q (実績)	進捗率	前年同期比	15.6 通期 (実績)	16.6 通期 (予想)	前年比
売上高*	19,537	24%	21,434	24%	+9.7%	81,241	88,000	+8.3%
売上総利益	4,456	23%	4,986	24%	+11.9%	19,081	21,000	+10.1%
売上総利益率	22.8%		23.3%			23.5%	23.9%	
販売費及び一般管理費	2,733	23%	2,996	23%	+9.6%	11,797	12,900	+9.3%
対売上高比率	14.0%		14.0%			14.5%	14.7%	
営業利益	1,729	24%	2,005	25%	+15.9%	7,283	8,100	+11.2%
営業利益率	8.9%		9.4%			9.0%	9.2%	
税引前当期（四半期）利益	1,606	24%	1,918	25%	+19.5%	6,832	7,700	+12.7%
当期（四半期）利益	1,577	23%	1,880	25%	+19.2%	6,875	7,600	+10.5%
1株当たり当期利益	46.29	-	55.18	-	-	201.76	223.04	-
1株当たり配当金	-	-	-	-	-	100.88	111.52	-

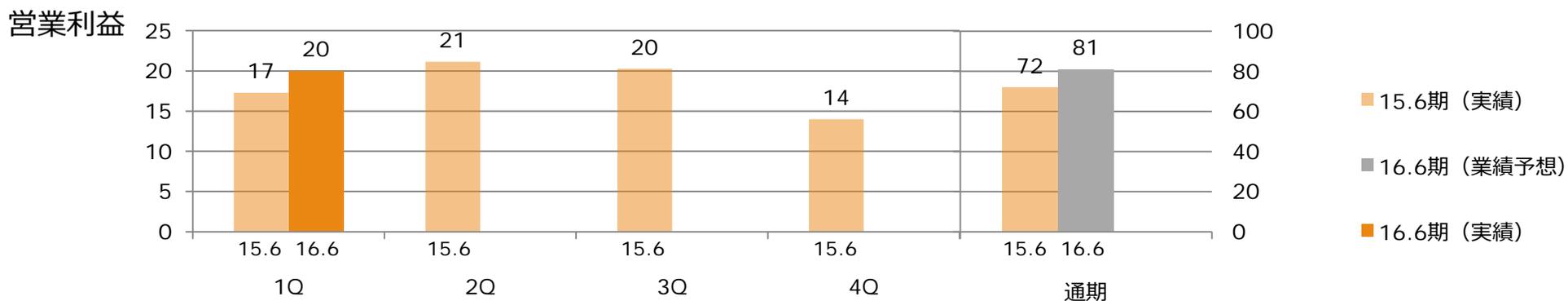
* 本説明資料では、売上収益を「売上高」と記載

四半期推移

- 通期業績予想に対する進捗率は、売上高24%、営業利益25%と前年同期と同水準。
- 売上総利益率は、主に売上単価上昇の効果により、前年同期より0.5%改善。
- 株主総会費用等の上場に伴うランニングコスト発生等、販管費は増加要因があるものの売上高比率を14%台にコントロール。
- 営業利益率9.4%と前年同期を0.5%上回った。



通期売上高比	15.6	16.6
1Q	24%	24%
2Q	25%	-
3Q	25%	-
4Q	26%	-
通期	24%	25%

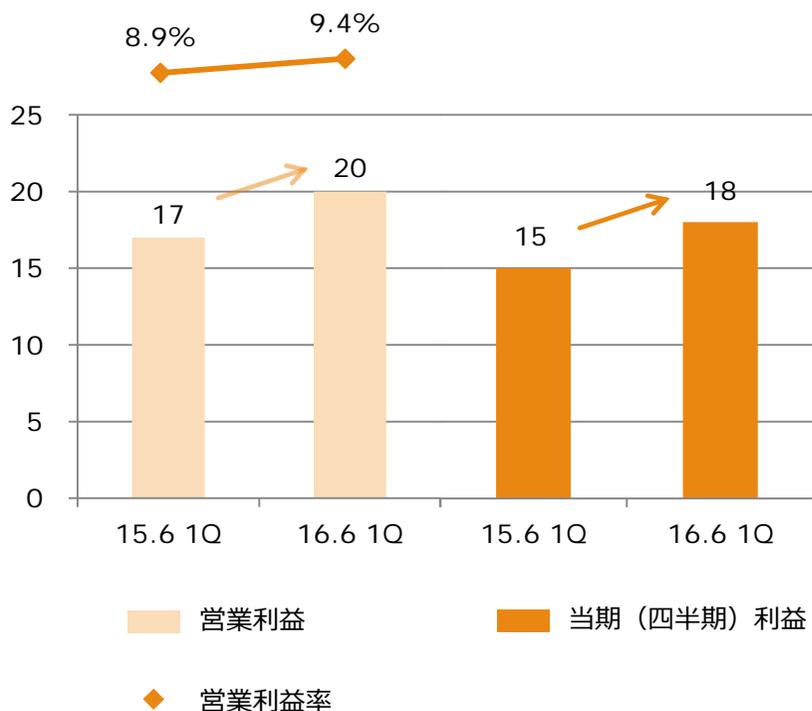


通期営業利益比	15.6	16.6
1Q	24%	25%
2Q	29%	-
3Q	28%	-
4Q	19%	-
通期	9.0%	9.2%

営業利益率	15.6	16.6
1Q	8.9%	9.4%
2Q	10.4%	-
3Q	9.8%	-
4Q	6.8%	-
通期	9.0%	9.2%

2016年6月期 第1四半期の損益の状況

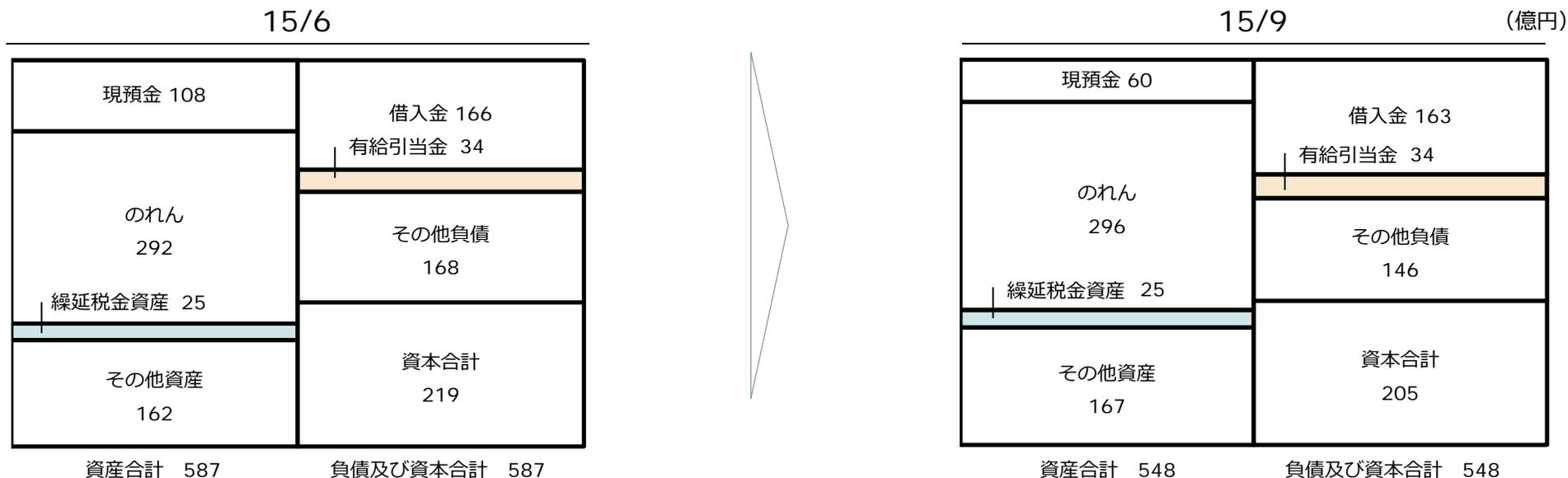
(億円)



(億円)	15.6 1Q	16.6 1Q	前年同期 増減額	前年同期比
売上高	195	214	+18	+9.7%
技術者増加要因			+15	
単価上昇要因			+4	
その他			+0	
売上原価	150	164	+13	+9.1%
売上原価率	<u>77.2%</u>	<u>76.7%</u>	<u>-0.5%</u>	
技術者増加要因			+12	
その他			+2	
売上総利益	44	49	+5	+11.9%
売上総利益率	<u>22.8%</u>	<u>23.3%</u>	<u>+0.5%</u>	
販管費	27	29	+2	+9.6%
対売上高比率	<u>14.0%</u>	<u>14.0%</u>	<u>-0.0%</u>	
その他収益 - その他費用	0	0	+0	
営業利益	17	20	+2	+15.9%
金融収益	0	0	+0	
金融費用	1	0	-0	
税引前四半期利益	16	19	+3	+19.5%
法人所得税費用	0	0	+0	
四半期利益	15	18	+3	+19.2%

2016年6月期 第1四半期のCFとBSの状況

- 配当金の支払い32億円、子会社からの受取配当に伴う源泉税の支払い11億円等のため、第1四半期の現預金増減額は△48億円。
- 自己資本比率は前年度末と同水準。



D/E レシオ : 0.8倍
 ネットD/E レシオ : 0.3倍
 自己資本比率 : 37.4%

D/E レシオ : 0.8倍
 ネットD/E レシオ : 0.5倍
 自己資本比率 : 37.5%

16.6 1Q CF

・ 営業CF	△6億円
・ 投資CF	△4億円
・ 財務CF	△36億円
現預金増減額	△48億円

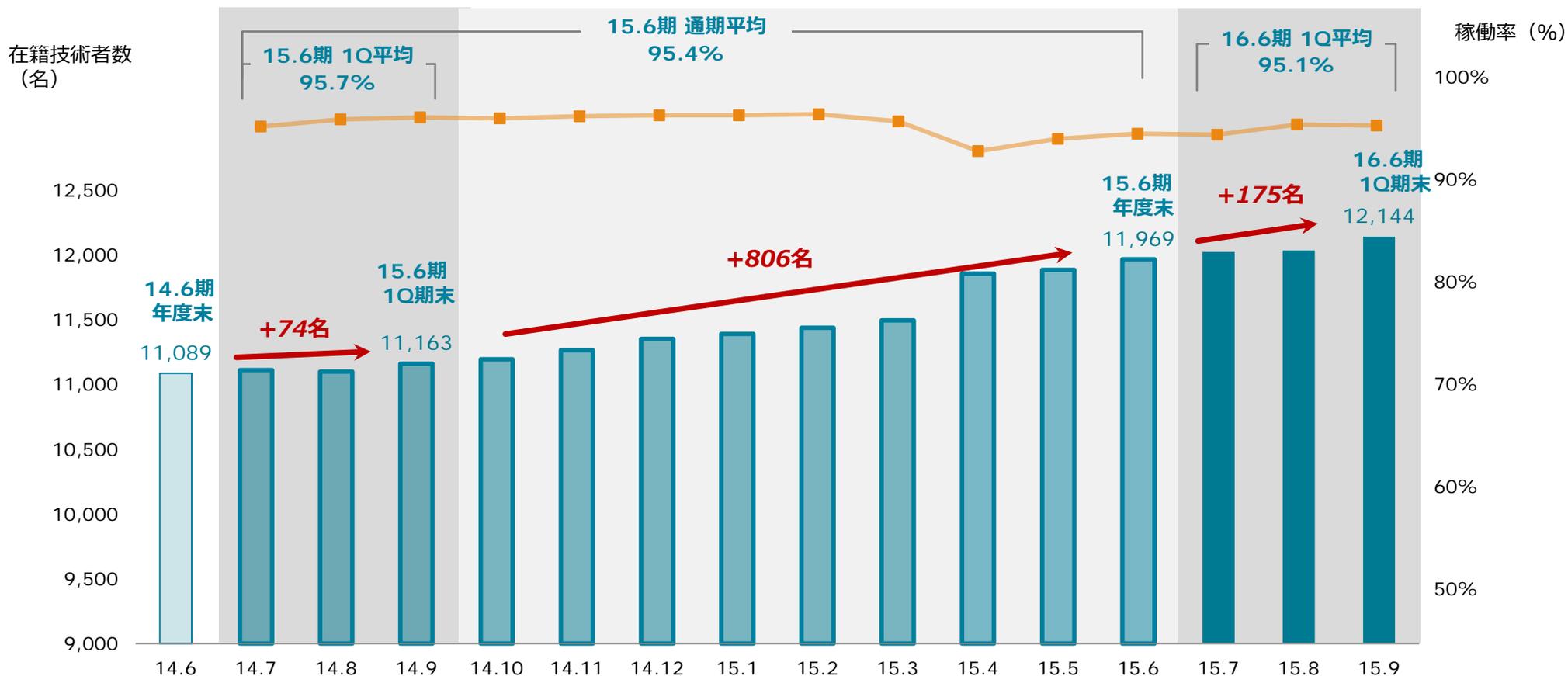
FCF △11億円

目次

	Page
I : 業績概要	1
II : KPI分析	6
i : 技術者数	7
ii : 売上単価	10
III : 株主還元	11
IV : 参考	13

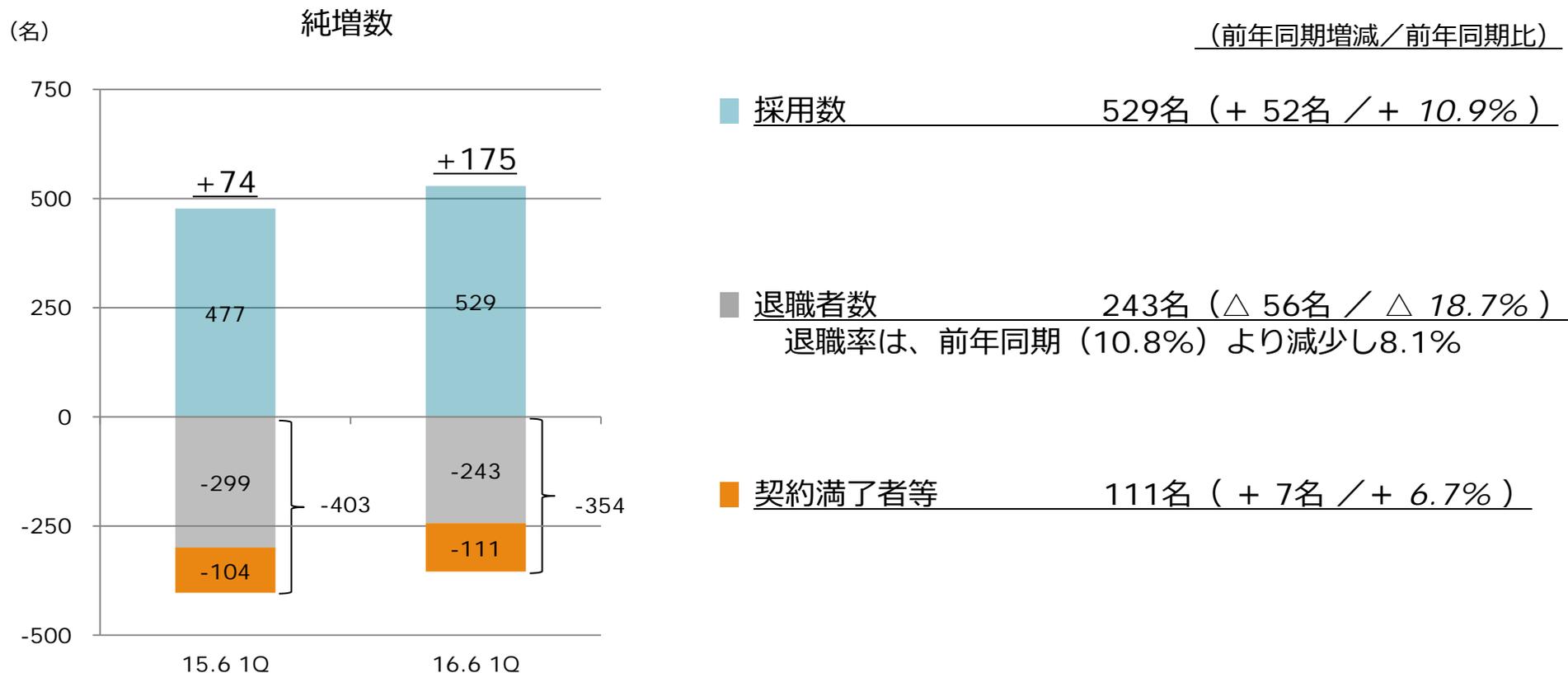
技術者数・稼働率

- 16.6 1Q期末の在籍技術者数は 12,144名、前年度末からの純増数は 175名（前年同期比+136.5%）。
- 16.6 1Q平均稼働率は 95.1%と適正水準である95%を維持。



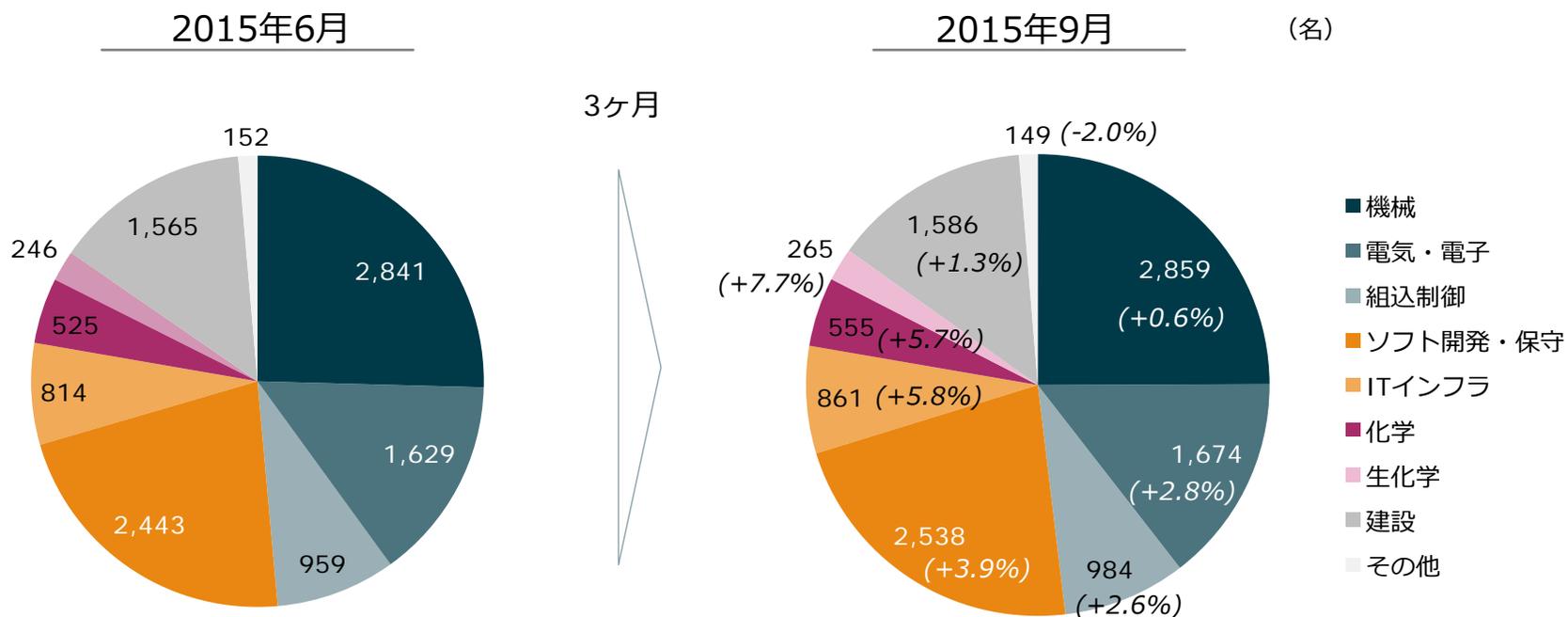
採用/退職の前年同期比較

- 採用数は 529名（前年同期比+ 10.9%）。
- 退職率は 8.1%。採用数の増加とあわせ、純増数は大きく伸長。



技術領域別稼働技術者数

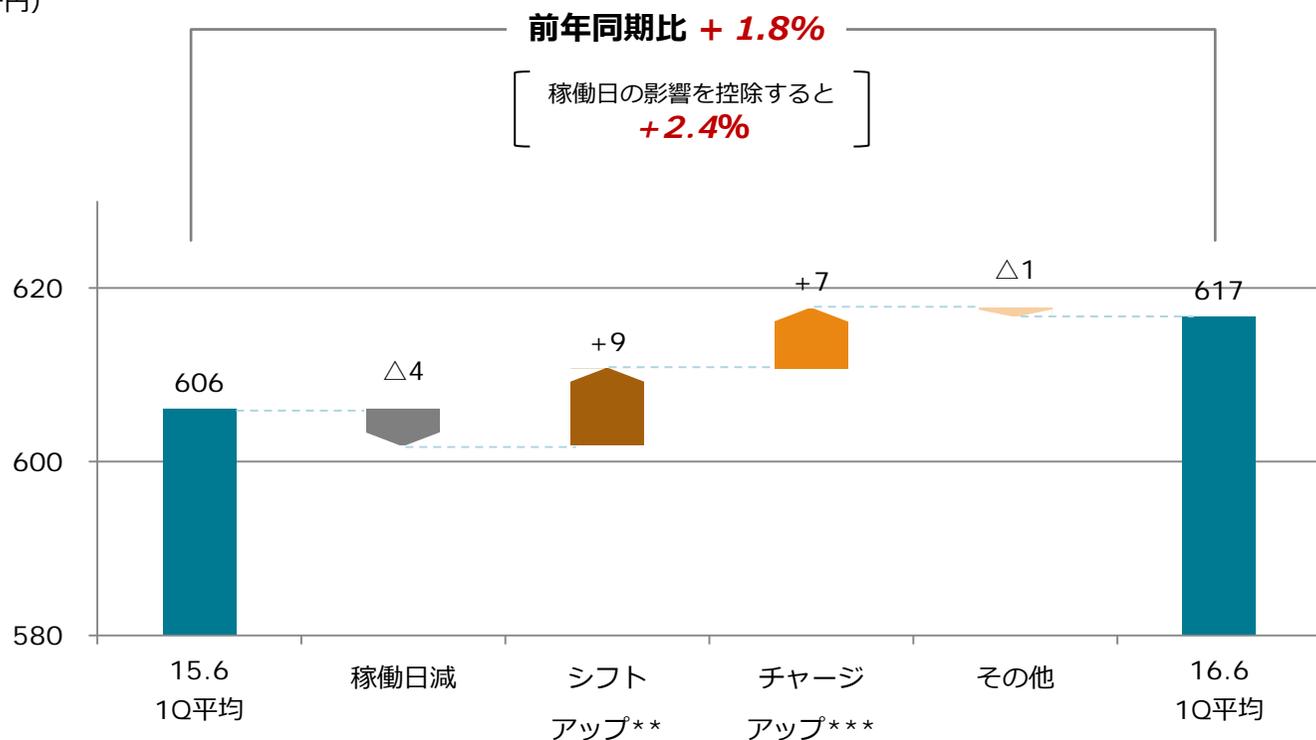
- ほぼ全ての技術領域では稼働技術者が増加。
- IT技術者の不足傾向が継続し、ソフト開発・保守、ITインフラのIT系技術領域が増加。



売上単価推移

- 売上単価*は 617千円（前年同期 +11千円/月）であり、上昇率は 1.8%。
- 前年同期より、稼働日が1.0日間少ないことにより 4千円/月、残業時間の減少により 2千円/月の単価減少。
- シフトアップにより 9千円/月、チャージアップにより 7千円/月の単価上昇。

(千円)



* 売上単価

: 技術者一人当たりの1カ月の平均売上。
技術者の契約単価に残業代等を加算した金額に相当。

** シフトアップ

: 配属先を変更することによる売上単価向上。

*** チャージアップ

: 同一配属先での契約更新時の売上単価向上

目次

	Page
I : 業績概要	1
II : KPI分析	6
i : 技術者数	7
ii : 売上単価	10
III : 株主還元	11
IV : 参考	13

2016年6月期の配当予想

- 連結配当性向50%、年間配当予想111.52円。前回発表の業績予想を維持。
- 2015年10月23日株価終値3,100円をベースに算定した予想配当利回りは3.60%。

(円/株)

	16.6期
中間配当 (予想)	50.00
期末配当 (予想)	61.52
EPS (予想)	223.04
配当性向	50%

目次

	Page
I : 業績概要	1
II : KPI分析	6
i : 技術者数	7
ii : 売上単価	10
III : 株主還元	11
IV : 参考	13

ピーシーアシスト買収の目的／効果

ピーシーアシスト社の買収

- 2015年9月4日付にて67%の株式取得
- 2016年6月期は1Q末にBS取込み、期間損益は2Q以降取込

- 当社グループ技術者の**技術力の底上げ**
- **教育研修サービス**売上と利益の将来的成長
← 派遣法改正、助成金制度の拡充

グループ会社化後、様々な取組みが具体化しつつある。

①テクノプロラーニングとの融合による教育研修講座開発

②営業面の協業による、法人向け教育研修の引合い増加

③オペレーション改善や助成金活用の見直し 等



- 内定者研修
- 新卒入社研修
- 育成コース（CATIA等）

- 戦略技術分野研修
- 資格取得研修（3DCAD利用技術者、ETEC等）

- 採用促進
- 売上単価アップ

経済・市場環境

中国経済鈍化の影響により、日本経済は当面足踏み状態

▶ 機械受注統計は2015年7月▲3.6%、8月▲5.7%*

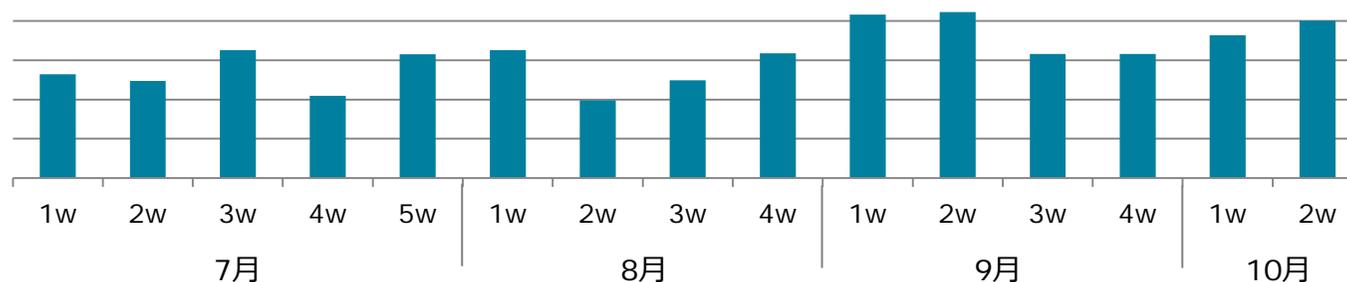
▶ 鋳工業生産は2015年7月▲0.8%、8月▲1.2%*

(*前月比)

しかし、

当社における**足元の需要は好調**

新規獲得オーダー数



改正派遣法が2015年9月30日に施行



当社のような無期雇用を主体とする大手事業者には**中期的にプラス**

▶ 採用増加によるシェアアップ、M&A・事業提携等の機会増大

免責事項

当社は、現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づき、本資料を作成していますが、本資料の正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれていますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示または黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、複製または転送等を行わないようお願いいたします。

TECHNOPRO